２０２２年
１０月発行

第26号 宝同協だより 芽生え（めばえ）

編集発行：宝塚市人権・同和教育協議会
〒665−8665　宝塚市東洋町１番１号（宝塚市教育委員会事務局 学校教育課内）TEL：0797−77−2040／FAX：0797−71−1891

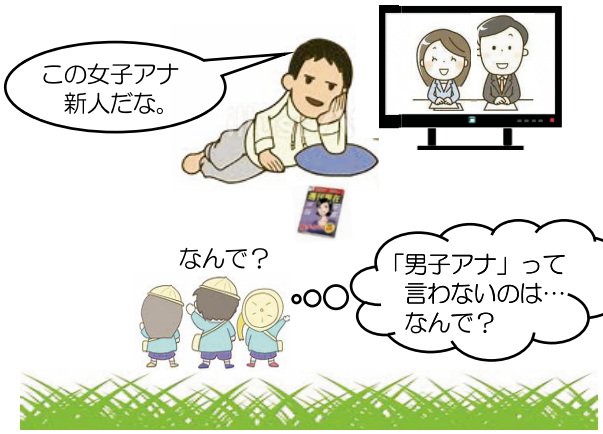
性別にとらわれない「男女共同参画」の視点で考えよう

「男らしく」「女らしく」「男だから」「女だから」という表現は未だにいろいろな場面で使われています。知らぬ間に身についてしまった「性別による固定観念」は、性差にとらわれない男女共同参画社会づくりを進めるうえで、どのような影響を及ぼしているのでしょうか。

だれもが平等に自分の望む生き方を選択できるようにしようという「ジェンダー平等」の意義、身近にみられる「性差別」を一緒に考えてみましょう。

※「ジェンダー」とは、生物学的な性別によって与えられた社会的、文化的に形成される性別を意味します。ジェンダーは時代や文化によって、変わっていきます。

「なんでトリオ 」といっしょに考えましょう



性別による役割分担が社会にあたえた影響は今なお根強く残っています。2022 年のジェンダーギャップ指数は世界 146 か国中 116 位。
〔政治の分野 139 位〕〔経済の分野 121 位〕〔教育の分野 1 位〕〔健康の分野 63 位〕となっています。
この結果が引き起こす問題についても話し合いを広げていきましょう。

空の玄関口「空港」搭乗のアナウンスは既に『Ladies and gentlemen』から『Hello everybody』にチェンジしています。

沖縄が日本に復帰して50年

２０２２年5月１５日、沖縄は日本に復帰して５０周年を迎えました。復帰５０年をきっかけに、わたしたちも復帰から今日までの歴史をふりかえりながら、そこに生きる人たちの思いを知り、ともに豊かな生活を送れる社会をつくっていきましょう。

沖縄が日本に復帰して「変わったこと」と「変わらなかったこと」

ドルから円へ（通貨切替）

自動車の対面交通が右側から左側へ

今も沖縄本島の 14.6%が米軍基地

写真（左・中／沖縄歴史資料館　右／沖縄国際大学学生の会）

「宝塚高松三線会」のみなさんの声

宝塚市高松町にある「高松会館」で、沖縄の伝統楽器「三線」を練習する「宝塚高松三線会」（12 名）。故郷の音楽をつなげていきたいと願う沖縄出身者と三線の音色に惹かれて参加したメンバーが集まって、沖縄民謡を三線で奏でています。沖縄の本土復帰 50 年を迎えて、故郷や三線への思いについて、メンバーのみなさんからお話を伺いました。

【沖縄にルーツを持つメンバーの話】

昔の沖縄では、移民政策を推進しており、私は南米に行くことになっていた。しかし、周囲の反対もあり、親戚をたよって 10 歳の時に家族と宝塚へやって来た。来た頃は、三線の音があちこちで流れ、踊っている人もたくさんいた。沖縄から来た私たちは「よそ者」のような差別を受けたこともあった。沖縄を離れ、さみしい思いもあったが、集まって三線に合わせて踊ることが、とても楽しかった。

復帰 50 年、ここに住むウチナーンチュの意識も変わってきたように思う。県人会の関係性も薄れ、結集率も下がっている。これも世の流れだと思っている。　（Ａさん）

私が来た当時の高松は、トタン屋根の家が集まっていた。周りは田んぼばかりで、阪急電車が走る様子が見え、走る音も聞こえていた。近所で豚を飼う家が 4～5 軒あり、養鶏場や牧場もあった。悪気はなかったと思うが、豚を飼っていることもあり、学校帰りの子どもたちから「ここくさいなあ」と言われることもあった。

阪神淡路大震災の際、高松町は道が狭く、消防車が入ることができなかった。これでは地域の安全が守られないということで、その後、地域改良が行われ、現在のようになった。

本土復帰 50 年の私の思いとしては、沖縄が故郷ではなく、60 年を過ごしたこの高松が私の故郷。幼い頃はガジュマルの木の下で駆け回った自然豊かな沖縄だったが大きく変わってしまった。そこで育っていないから、復帰 50 年に思いはあまりない。

今、この三線会に若い人が入ってきてくれている。沖縄に行って三線にふれて、三線の会をつないでもらっていることに感謝をしている。　（Ｂさん）

高校まで沖縄で過ごした。小さい頃は、海岸へ、戦争中の薬莢を拾いに行き、家へ持ち帰っては、親がそれを売りに行っていた。小学生の頃、米軍のブルドーザーが来て、崖を崩してグラウンドを広げてくれた。クリスマスには運動場へ米軍のヘリコプターがやってきて、学用品やお菓子を持ってきてくれた。また食糧難の際には、小麦粉や油、脱脂粉乳をくれた。アメリカに対して、とても親切な印象を持った子ども時代だった。しかし、高校生になり、米軍に土地や畑を取られていることを知り、沖縄返還運動に参加するようになった。

三線は、床の間に飾ってあり、父親がよく弾いてくれて、家族で歌っていた。　（Ｃさん）

当時の沖縄では、就職先がなかなかなかったため、多くの人が本土へ集団就職していった。沖縄で一日働いても１ドルしか稼ぐことができなかったため、本土で働いて家族にプレゼントしていた。　（Ｄさん）

【三線に憧れて参加しているメンバーの声】

沖縄に行った時に、三線にふれた。音色のよさに惹かれて、この会に参加した。我流だけどみなさんと音を重ねるまでたどりついた。　（Ｅさん）

何かしら習いたいと思っていた時この会を知った。やさしい音色と沖縄のことばをつないでいきたい。　（Ｆさん）

高松三線会をとおして、沖縄のことについていっしょに学んでいきたい。　（Ｇさん）

【加藤・登日綱】

連載　夢と希望はどこに？　㉓　柿の実と田舎の心

子どもの頃の話です。秋になると田舎の里に柿が実ります。先ずは「くぼ柿」です。どんな漢字か知りませんが、柿としては小さくてドングリ型で中身は少々渋みがある、秋最初に食べる柿です。民家から外れた山里に多くなり、どこのお家の柿かわからないので友だちともぎ取り食べたものです。

秋が深まると大きな家の庭や田畑の土手に、今では店頭に並ぶ「富有柿」が実ります。母が「ふゆがき」と言うものだから、小さい頃はず～と冬の訪れを告げる「冬柿」だと信じていました。

この柿は「くぼ柿」と違って大きく扁平型で、身の色も見栄えのよいオレンジ色で甘い柿でした。さすがにこの柿は黙ってもぎ取ることは誰もしません。「どろぼ～」のレッテルを張られたくないからです。そこで待ち焦がれたのは台風の襲来です。（台風の被害に合われた方には申し訳ありません）台風によって柿の枝が折れ、「ふゆ柿」が落ちているのです。落ちているものは誰のものでもない、拾った者のものだと勝手に解釈して友だちと食べたものです。

「富有柿」が終わると「渋柿」です。山際に多くなるのですが、これはさすがに食べられません。腹ペコでもこの渋さは舌にしみ、喉を通りません。それでも、渋柿の中にはものすごく大きくなって、熟すとおいしくなる大人の味の「じゅくし柿」がありましたが、たいてい高いところになっているため、虫取り網程度では届きません。

柿の季節が終わると厳しい冬の到来です。葉を落とした柿の木にはどの木のてっぺんにも、二、三個の柿が残っています。高すぎて取り残されたものと思ったのですが、母が「鳥たちの為に残しているんだよ、種もあちこち落としてくれるし」と教えてくれました。今日までず～と「田舎の心」として私の心に残っています。

【和久】

2022年度 第12回 宝同協研究大会「人権交流学びのつどい」のご案内

テーマ　『　あなたに伝えたい　わたしの思い　』

日　時：2022年11月19日（土）13:30～16:30（受付は13:00～）

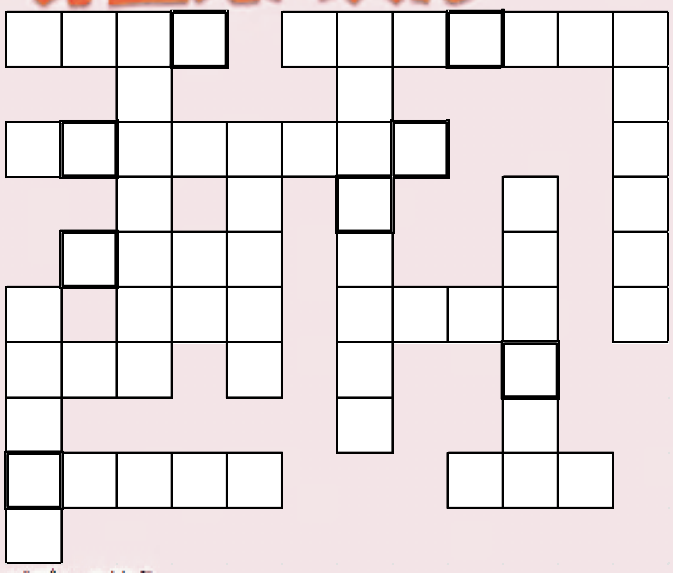
場　所：宝塚市立教育総合センター（宝塚市小浜１－２－１）

内　容：○ 日頃の生活の中での差別、人権の問題について共に考えます。
○ お互いの立場を考えながら、自らの体験や意見を積極的に出し合います。
○ 自分自身が今、できることを考え、共に生きる社会の実現をめざします。

日　程：〈全体会〉　13:30～14:00
①オープニング　　沖縄の三線の音色にのせて（宝塚高松三線会による歌と演奏）
②あいさつと「学びのつどい」の趣旨説明　　③「１０年後のわたし」表彰　　④来賓・報告者の紹介
〈分科会〉　14:10～16:30

	分 科 会 名	報告者	報告内容
第１分科会	子どもと夢を語ろう	６人の子どもたち	・「１０年後のわたし」の発表 ・家族の自慢話
第２分科会	部落差別について考える	山田　哲生さん	・太鼓と仲間とのつながり ・自分らしく生きる(差別をなくすために)
第３分科会	障がいのある人たちとの共生を考える	有吉　英子さん	・難病と向き合ってきたこれまで。 ・障がいとして受け入れ、自分だからこそできること
第４分科会	在日外国人の人権を考える	セゼ・カテリン・ハルミさん	・来日の経緯について ・幼少期から社会人になるまでについて ・地域での居場所
第５分科会	さまざまな性について考える	佐藤　美智さん	・男女の身体の違いを認め、ありのまま個人と向き合ってきたこと ・個人を取り巻く環境(社会)の中での生き方について
第6分科会	学校園所の人権教育 ～持続可能な人権学習をめざして～	杢野 麻美子さん	・「部落差別」を知らない、教えられない若い教員に、どのような研修を重ねていけばよいのか ・「人権の視点」を踏まえた「人権学習」「道徳」を実践するための校内研修のあり方とは

芽生えパズル



＜スケルトンパズル＞

○たて・よこのマス目に下の文字を
　うまくあてはめます。
○太いマス目に入った文字を
　並べ替えてある言葉にします。
　（答えは下にあります。）

３字　みらい・そうじ・ぱんだ
４字　おもちゃ・くりーむ・もっきん
５字　おみそしる・かれんだー
　　しょうじき
６字　むがむちゅう・にっくねーむ
７字　たにんのそらに・ちからいっぱい
８字　たからづかかげき
　　にんげんこくほう

パズルの答え

				の			

【稲垣】

街角風景

西谷の柿【和久】

学校の様子

力を合わせてカヌー体験（自然学校）

少人数で話し合い活動（たてわり学習）

心合わせてみんなでジャンプ（体育大会①）

あいあいパークで鬼ごっこ（校外学習）
【尾上】

鶴の折り方を教える６年生（平和学習）
【木下】

背渡りボール送りリレー（体育大会②）
【稲垣】

❀　編 集 後 記　❀

今回の編集委員会では、「男女共同参画の視点」について長い時間をかけて話し合いました。話題に上げられているのは知っていても、身近な場面になると固定観念等にとらわれがちになることに改めて気づき、人権について考えるきっかけとなりました。【菅】

宝同協だより「芽生え」編集委員

津国　千恵子・菅　理香・平松　友紀・坂野　はるみ
木下　真里・尾上　宏一・稲垣　久和・池澤　径子
和久　有彦・美除　浩・加藤　謙太・石櫃　孝啓
荻野　雅憲・登日綱　勢津子

答え　かんしゃのきもち